公益財団法人ちばのＷＡ地域づくり基金
2016 年度　事業報告

（2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）

【2016 年度概要と成果】

2016 年度は、複雑多様化する地域課題に対し、コミュニティ財団としてどのような役割を果たし、どのような価値が提供できるのかを問う 1 年となりました。公益セクターを中心に、社会的投資や社会的インパクト評価等への関心が高まる中、インパクト志向の助成事業の構築や資金拠出組織として信頼されるための組織基盤強化の事業に取り組みました。

市民ファンド推進プログラム助成事業では、株式会社 PubliCo によるコンサルティングを受け、自団体のビジョン、ミッション、ポジションの再定義、成果指標の設定、公益活動が成果志向にシフトするための支援プログラムを構築することができました。

また、全国コミュニティ財団協会の事業、多様な主体による課題解決を目指すコレクティブインパクトモデル事業では、地域の実状を具体的に浮かび上がらせるデータの収集や分析、共有する場をつくるという試行を通じて、助成金による既存の事業支援や団体支援に留まらず、具体的に地域課題を解決していく案件形成の機能や多様な主体をつなぐ機能を持ち先導していく役割や価値の提供が必要であると確認しました。

一方で寄付募集活動が計画通り実施できなかったので、2017 年度は寄付受け入れ体制や助成事業の質の向上並びに社会的投資市場の醸成に一層の強化を図ってまいります。

■２０１６年度の主な実績

〇支援プログラムの構築（深掘り・共有・資金調達）

〇コレクティブインパクトモデル事業による案件形成の試行

＊2016 年度の受入寄付額：4,407,424 円　　累積寄付総額　33,318,286 円

【公益目的事業１：公益活動支援助成事業】

１．事業指定助成プログラム

本プログラムは、公募・審査を経て採択された公益活動（事業）に対して市民公益活動団体（NPO）と財団が一緒になって寄付を集める資金調達プログラムであり、当財団はホームページ内に専用ページの設置や寄付カタログの提供を行い、寄付を募った。また、各団体に資金調達に関する助言を行った。

■第４期

昨年度寄付募集を行った第 4 期 2 事業について、584,456 円の助成金を 4 月 23 日に支払った。

■第５期

・寄付募集期間：2015 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日（一部は 12 月 31 日まで）

・寄付募集事業数：3 事業（継続 2 事業、新規 1 事業）

事業名・団体名	目標額	寄付額	件数	達成率	助成額
廃校を再生して地域の活力を取り戻すための活動拠点づくり「内田未来楽校」（報徳の会・市原市）	2,500,000 円	939,000 円	123	37.56%	751,200 円
鋸山登山道整備事業（公益財団法人金谷美術館・富津市）	1,800,000 円	65,080 円	15	3.62%	52,064 円
生きづらさを感じている中高生の居場所づくり「ユースペース」（NPO 法人子どもの環境を守る会 J ワールド・松戸市）	280,000 円	150,675 円	25	53.81%	120,540 円

２．テーマ・地域提案型助成プログラム

未来を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会をつくるために当財団が設置したプログラムで、リーフレットやウェブを活用し寄付を募った。2016 年度は調査助成と活動支援助成を実施した。

■子どもの今と未来を支える基金

（１）子どもを取り巻く社会課題の深掘りと解決策の先行事例の調査・発信・共有助成

・申請受付期間：10 月 1 日～10 月 31 日

・助成総額：500,000 円

・申請件数／採択件数：１件／１件

・選考会概要：

開催日時：11 月 19 日（土）

場所：生活クラブ生活協同組合　会議室

選考委員（五十音順・敬称略）：

勝又恵里子（NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ）

庄　妙子（生活クラブ生活協同組合）　畑山文恵（NPO 法人浦安まちづくりネット）

岩永牧人（公益財団法人ちばのＷＡ地域づくり基金）

関谷　昇（公益財団法人ちばのＷＡ地域づくり基金）

選考方法：助成申請書、CANPAN で開示されている情報、インターネットで公開されている情報、プレゼンテーション及び質疑をもとに助成趣旨及び選考基準に沿って、選考を行った。

選考基準：１．本助成の趣旨と条件に合致しているか

２．調査の目的や必要性、動機の明確さ

３．地域社会課題の深刻さ・緊急性

４．申請事業の計画性・実現可能性・実施体制

５．成果目標が明確で展開が期待できるか

・助成先：

団体名	所在地	事業名	助成額
NPO 法人ダイバーシティ工房	市川市	発達障害児の支援者を増やすための基盤づくり	500,000 円

（２）活動支援助成

・申請受付期間：2017 年 2 月 6 日～2 月 22 日

・助成総額：600,000 円

・申請件数／採択件数：8 件（内 2 件は辞退）／3 件

・選考会概要：

開催日時：3 月 11 日（土）

場所：千葉市ビジネス支援センター　会議室

選考委員（五十音順・敬称略）：

岩村　真奈美（中央労働金庫）　小松　孝之（ちばぎん総合研究所）

庄　妙子（生活クラブ生活協同組合）　関本　征四郎（NPO 法人 ACOBA）

萩原　博（千葉日報社）　横山　清美（浦安三番瀬を大切にする会）

選考方法：助成申請書、CANPAN で開示されている情報、インターネットで公開されている情報、プレゼンテーション及び質疑をもとに助成趣旨及び選考基準に沿って、選考を行った。

選考基準：１．本助成の趣旨と条件に合致しているか

２．課題把握・・・解決すべき課題の把握と認識ができており、それは解決が必要な課題であるか

３．実現能力・・・実施体制や計画性があると見込めるか

４．展開可能性・・・助成を行うことにより地域への広がりや当事者を取り巻く環境の改善につながるか

・助成先：

団体名	所在地	事業名	助成額
NPO 法人ネモ　ちば不登校・ひきこもりネットワーク	習志野市	フリースクールで行われる多様な学習支援	200,000 円
ＮＰＯ法人ウィーズ	船橋市	離婚後の親子の面会交流に関するイベントの開催	200,000 円
ＮＰＯ法人カフェ・バルコニーの家	千葉市	モーニング子供食堂	200,000 円

※助成金支払いは 2017 年度実施

３．冠基金による助成・褒章プログラム

2016 年度は昨年度と同様の２件の冠基金の運営を行った。冠基金の新規設置はできなかった。

■生活クラブ虹の街エッコロ福祉基金（寄付者：生活クラブ生活協同組合千葉）

高齢者、障害者、次世代育成、生活困窮者が暮らしやすくなるための事業、調査・研究に助成する「生活クラブ虹の街エッコロ福祉基金」を設置し、助成を実施した。

・申請受付期間：11 月 1 日～11 月 15 日

・助成総額：2,000,000 円

・申請件数／採択件数：12 件（内 1 件辞退、1 件対象外）／9 件

・選考会概要：

開催日時：2 月 18 日（土）

場所：千葉市ビジネス支援センター　会議室

選考委員（五十音順・敬称略）：

松本　武（NPO 法人 NPO テクノサポート）　戸谷　久子（千葉興業銀行）

清水　洋行（千葉大学文学部准教授）　石川　智章（日本政策金融公庫）

阿部　剛（NPO 法人まつど NPO 協議会）

山本　百合・畔上　久美（外部委員：生活クラブ生協千葉）

選考方法：助成趣旨及び選考基準に沿って、申請書類と公益ポータルサイト CANPAN に開示されている団体基本情報、プレゼンテーション及び質疑をもとに厳正な審査を行った。

選考基準：１．公益性があり、地域社会のニーズがあるか

２．事業の必要性・先駆性

３．事業内容の計画性や実現可能性

４．事業の継続性・発展性

５．団体・事業・社会に与えるインパクトと波及効果

・助成先：

団体名	所在地	事業名	助成額
ＮＰＯ法人世界のともだち	船橋市	ホームスタートを始めるための開催準備事業	300,000 円
ＮＰＯ法人ちば MD エコネット	船橋市	バリアフリーのカフェづくり（入口スロープ設置）	200,000 円
ＮＰＯ法人こども子育て・発達支援研究会	松戸市	障害のある子どもを持つ保護者に向けたライフサポートファイルの活用普及事業	210,000 円
One Step	船橋市	団体の知名度向上及び訪問美容活動の充実化	220,000 円
ＮＰＯ法人 B-Net 子どもセンター	酒々井町	第 11 回 B-Net 子ども夏祭り～みんな巻き込め祭りだ、わっしょい～	150,000 円
ＮＰＯ法人ほっとすぺーす・つき	佐倉市	居場所事業・訪問事業	160,000 円
ＮＰＯ法人市川子ども文化ステーション	市川市	小学生の放課後の居場所づくり整備事業	300,000 円
キャロットクラブ～認知症になっても安心して暮らそう会	富里市	認知症当事者による講演会	160,000 円
我孫子自主夜間中学“あびこプラス・ワン”	我孫子市	子どもから大人の中学までの学びと学び直しを支援する教室の運営事業	300,000 円

・2014 年度助成先活動報告会&交流会の開催

2014 年度に助成した 8 団体の事業報告と交流会を開催した。冠基金設置者である生活クラブ生協組合員や選考委員も参加し、各団体の活動による成果を共有し、団体同士の交流を図った。

日時：7 月 6 日（水）10：10～13：00　場所：生活クラブ生活協同組合ホール　参加者：34 名

報告団体：

団体名	所在地	事業名
四街道市民ミュージカル実行委員会	四街道市	四街道市民ミュージカルⅡ
NPO 法人おやこカフェ	千葉市	幕張えほん図書館整備事業
NPO 法人ワーカーズコレクティブ風車	佐倉市	ストップ無縁社会・つなぐ場創りのための設備整備事業
NPO 法人小林住みよいまちづくり会	印西市	第 10 回小林鯉のぼり大会
認定 NPO 法人いもむし	柏市	視覚シンボルを用いて、自閉症児童の育ちを地域社会で支える
協同組合千葉県若人自立支援機構	千葉市	児童養護施設入所児の就労支援事業
NPO 法人たからばこ	南房総市	気になる子、そして全ての子を温かく育む地域づくり
NPO 法人 B-Net 子どもセンター	酒々井町	B-Net 子ども夏祭り～一人ひとりが主役の熱い夏～

■「東日本大震災被災地・被災者支援活動助成」（寄付者：日本労働組合総連合会千葉県連合会・一般社団法人千葉県労働者福祉協議会）

東日本大震災の千葉県内の被災地、被災者や、千葉県内への避難を支援する活動、被災当事者による自立支援活動、千葉県内での復興支援活動全般を対象に、昨年度に引き続き助成を実施

した。

・申請受付期間：6 月 1 日～6 月 30 日

・助成総額：400,000 円

・申請件数／採択件数：4 件（内 1 件辞退）／2 件

・選考会概要：

開催日時：7 月 22 日（金）、9 月 14 日（水）

場所：千葉市生涯学習センター　ミーティングルーム

選考委員（五十音順・敬称略）：

飯田　耕一（株式会社ＣＩＣパートナーズ）　石川　智章（日本政策金融公庫）

戸谷　久子（千葉興業銀行）　萩原　博（千葉日報社）

横山　清美（浦安三番瀬を大切にする会）

募集・選考経過：2016 年 6 月 1 日から応募受け付けを開始。応募要件の確認、ヒアリング、選考委員からの質問に対し団体からの回答を受け、7 月 22 日に選考会を開催した。

採択件数が 1 件だったことから、対象事業の実施期間を 3 月 15 日まで延期し、二次募集を行った。二次募集は 8 月 1 日から受け付けを開始し 1 団体の応募があった。同様に応募要件の確認、ヒアリング、選考委員からの質問に対し団体からの回答を受け、9 月 14 日に選考会を開催した。

選考方法：申請書類及び事前ヒアリングによる回答を踏まえ相対的評価による審査を行った。

選考基準：１．申請事業が本助成の趣旨や条件に合致しているか

２．実施団体の日頃の活動に、十分な市民性や創造性があるか

３．公益性があり、被災地や被災者、避難者のニーズがあるか

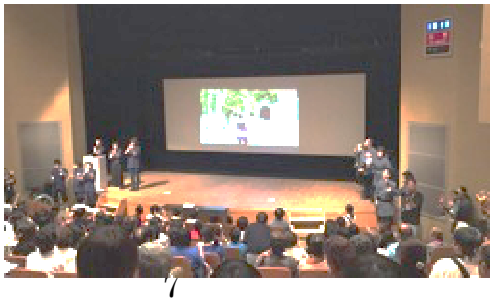
４．事業内容・収支計画ともに具体的かつ妥当で、責任をもって事業を推進・完了できるか

５．人的資源があり、周囲からの協力や連携が見込めるか

６．事業終了時点での成果が見込まれ、事業の継続・発展が期待できるか

・助成先：

団体名	所在地	事業名	助成額
iii project（トリプルアイプロジェクト	旭市	震災から 5 年～見つめ直そう　私たちに出来る事～	200,000 円
花と緑で旭を元気にするプロジェクト協議会	旭市	2017.3.11 を継承する集い	200,000 円



４．物品仲介事業

今年度は３件（大型家具・プリンターインク）の物品提供があったが、希望団体はなかった。提供情報については、ウェブサイトにも掲載し、進捗や報告を公開している。

５．多様な寄付の機会を提供する

公益活動を推進するための普及啓発、寄付のハードルを下げるための機会を提供する、募金箱の設置拡大、寄付付き商品の開発、チャリティイベントの実施はできなかった。

■ちばのＷＡサポーター制度

継続的に財団運営を応援してもらう仕組みとしてちばのＷＡサポーター制度を構築した。
リーフレット、専用チラシやウェブサイト等を活用し呼びかけを行った。

サポータープラン	費用	件数
マンスリーサポーター	月額 1,000 円	2
	月額 3,000 円	0
	月額 5,000 円	0
ちばのＷＡサポーター	年額 10,000 円	14
	年額 20,000 円	0
	年額 50,000 円	2
ちばのＷＡ法人サポーター	一口 50,000 円	2

■寄付付き自動販売機（支援ベンダー）

東京キリンビバレッジサービス株式会社千葉西営業所様と協力し、飲料購入の一部が寄付になる支援ベンダーを新規に３台設置した。（計４台）

■インターネットクリック募金「gooddo」

インターネットクリック募金「gooddo」を活用し、団体の認知度を高めるとともに支援金の募集を行った。

http://gooddo.jp/gd/group/chibanowafund/

■遺贈寄付

・全国レガシーギフト協会加盟団体として千葉県の相談窓口を担当した。相談実績 0 件

「いぞう寄付の窓口」https://izoukifu.jp/

・白井市成年後見制度講演会にて遺贈寄付事例紹介を行った。

・全国 7 ブロック遺贈寄付研修開催（全国コミュニティ財団協会事業）

【概要】

近年、人生の集大成としての遺産を社会がよりよくなるために使いたいと考える人が増加し、遺産の一部を NPO 等の団体に寄付をする『遺贈寄付』への関心が高まっていることをうけ、各地域でのコミュニティ財団において遺贈寄付の窓口またその活用を相談する先としての機能を高めて、寄付者の意思が全国でかなえられる体制づくりを行うため、遺贈寄付の相談窓口となりうる士業専門家の方と、受け手となる NPO 等の活動団体を対象に、必要な法務・税務・信託などの幅広い知識を学ぶ研修会を全国 7 ブロック（東北・関東甲信越・東海・近畿・中国・四国・九州）で実施した。当財団は関東甲信越ブロックを担当した。

開催日時・場所	種別	内容／講師	対象・参加人数
11 月 29 日（火） 18:00～20:30 日本財団会議室	NPO 向け遺贈寄付研修	①「なぜ今、遺贈寄付なのか」…遺贈寄付の現状の紹介と課題の説明／徳永洋子（NPO 法人日本ファンドレイジング協会理事） ②「税務的観点からの遺贈」…遺贈寄付を受けるにあたっての会計講習／脇坂誠也（税理士・NPO 法人 NPO 会計税務専門家ネットワーク代表理事）	コミュニティ財団、中間支援組織、NPO 等 50 名
11 月 30 日（水） 10:00～18:30 日本財団会議室	遺贈寄付アドバイザー研修	①「なぜ今、遺贈寄付なのか」…遺贈寄付の現状の紹介と課題の説明、寄付者からのマッチング要請への対応／山北洋二（NPO 法人日本ファンドレイジング協会理事） ②「税務的観点からの遺贈」／脇坂誠也 ③「法的観点からの遺贈」／樽本哲（弁護士・赤坂シティ法律事務所・NPO のための弁護士ネットワーク） ④「NPO 的観点からみた遺贈」／山北洋二 ⑤「信託の観点からみた遺贈」／齋藤弘道（野村信託銀行株式会社）	士業専門家（弁護士、司法書士、税理士など） 40 名

６．市民ファンド推進プログラム（市民社会創造ファンド助成事業）

組織の運営基盤強化を目的とした本助成プログラムの採択を受け、2016 年 1 月から 12 月までの 1 年間で事業を実施した。設立から 5 年目を迎えるに当たり、これまでできなかった自団体の組織運営の課題の把握、ビジョン、ミッションの再確認と共有や助成プログラムの見直し等取り組むことができた。

【概要】

コミュニティ財団が地域課題解決に取り組み、多様な主体による社会参加と地域資源循環を促進するためには、これまで中心的に行ってきた「寄付と助成」にプラスαの取り組みが必要である。特に市民の直接的な寄付を原資とする助成金には、「成果」「波及効果」「社会的変革」の可視化が求められる。地域課題の解決に取り組む NPO においても、社会的成果を定義し、効率的、効果的な事業が実施できるよう第三者による支援や評価を体系化する。助成をする側、受ける側が成果志向にシフトし、助成事業が社会的成果を収めるための支援を行い、地域社会からの信頼を高め、地域における資源循環の促進を図ることを目的とする。

【実施内容】

（1）株式会社 PubliCo によるコンサルティング

対象団体：NPO 法人子どもの環境を守る会 J ワールド、報徳の会、公益財団法人ちばのＷＡ地域づくり基金

①連続セミナー開催（全 5 回）座学＋ワーク

講師：PubliCo 長浜洋二さん（1～5 回）、トヨタ財団加藤剛さん（5 回）

参加団体：5 団体（公募 2 団体含む：NPO 法人ほっとすぺーす・つき、四街道市みんなで地域づくりセンター）

第 1 回：2 月 8 日（月）午後　NPO における成果とは何かについてと現状把握・分析について

第 2 回：3 月 4 日（金）午後　ターゲット顧客とペルソナの設定について

第 3 回：3 月 25 日（金）午後　事業（活動）づくりとマーケティング計画

第 4 回：4 月 18 日（月）午後　資金調達（ファンドレイジング）計画

第 5 回：5 月 6 日（金）午後　評価について　事業発表会

②定例ミーティング

ちばのＷＡ対象：計 6 回（1/12、4/5、4/22、5/27、6/27、8/1）

実施内容：本プログラムの目的、達成値、成果物の共有、自団体のロジックモデル、成果指標の作成

支援先団体対象：計 6 回（6/27、8/1、9/5、10/3、11/21、12/12）

実施内容：NPO 法人子どもの環境を守る会 J ワールド→中期事業計画を策定。広報力に課題があることに気づき、ホームページの改善に取り組んだ。その過程でビジョン、ミッションの再確認、事業内容の整理ができた。

報徳の会→成果指標策定の過程で、ミッション、ビジョンを明文化。事業のブラッシュアップ、成果指標を作成した。

各団体とも 12/12 の最終回では 1 年間の成果と 3 年後のありたい姿を発表した。

③ちばのＷＡスタッフによる伴走支援の実践

定例ミーティングにおいて、PubliCo が行う支援先団体とのやり取りを見て学んだ。

終盤でちばのＷＡも参加し、各団体へのフィードバックを行った。

個別支援：子どもの環境を守る会 J ワールド（3/24）セミナーのフォローアップ

（2）伴走支援つき助成プログラム体系化

①伴走支援つき助成プログラム構築

伴走支援の実践により、事業指定助成プログラムの見直しを行い、伴走支援つき助成プログラムとして調査や可視化・共有を含めた資金調達プログラムへとリニューアルした。

②エントリーシート・助成申請書・チェックシート作成

プログラムのリニューアルに合わせてエントリーシート、助成申請書もリニューアルした。併せて伴走支援対象の基準を可視化するチェックシートを作成した。事務局選考、申請書作成の際に使用する。

（3）研修プログラムへの参加と報告

・第 2 回研修「シェアリング＆ワーキング」(市民ファンド／コミュニティ財団の運営強化戦略を考えよう)

日時：7 月 1 日（金）13:00～18:30

場所：ヒルサイドテラス　サロンウェスト（代官山）

・第 3 回研修「ステップアップフォーラム」（市民ファンド／コミュニティ財団の運営強化戦略のポイントを考えよう）

日時：2 月 17 日（金）13:30～18:10

場所：SOOO dramatic!（入谷）

７．社会的投資時代の新水準に合致したコミュニティ財団セクターの機能強化事業（コレクティブインパクトモデル事業）（全国コミュニティ財団協会委託事業）

持続可能な地域社会づくりを構築するために、多様なセクターが枠を越え互いに強みやノウハウを持ち寄り、同時に社会課題に対する働きかけを行うことにより、課題解決や大規模な社会変革を推進することを目的とした事業で、日本財団から助成を受け全国８か所（宮城、千葉、愛知、神戸、岡山、佐賀、熊本、沖縄、京都）で実施された。

千葉では「社会的孤立を防ぐコレクティブインパクト」として以下の通り実施した。

【実施内容】

事業名：「松戸市における貧困により孤立する子どものセーフティネットづくり」

事業実施背景及び目的：近年、「子どもの貧困」がクローズアップされる中、各地に市民やNPO等による子ども食堂や居場所づくりが自主的に行われ、行政による施策（学習支援、相談事業等）も実施されている。しかし、これら既存の支援サービスが必要としている当事者に届いていない可能性が現場から指摘されつつある。その理由として、必要としている当事者に情報が届いていない、あるいは、当事者が積極的に支援サービスを受けようとしない背景もあると考えられる。

これら「顕在化しない当事者」のための、本質的な課題解決に結びつけるためには、ひとつの組織の力ですべてを解決しようとするのではなく、既存のサービス実施者それぞれがセクターを超え、互いに強みやノウハウを持ち寄り、情報共有を図り、連携して子どもの成長に沿った時間軸において隙間のない支援サービスを提供することが必要と考える。併せて、連携先のネットワーク化とハブとなる支援機能の確立も必要となる。

本事業（全体）では、顕在化しない当事者を含めたすべての子どもに対して、家庭の貧しさから子どもが当たり前の生活や社会体験の機会を奪われることなく、将来をあきらめることなく、社会的にも経済的にも自立した生活を営めること、将来の社会を支える人（納税者）になること、すなわち貧困の連鎖を断ち切る状況を地域全体でつくることを目的とする。

初年度は、支援団体や関係者による情報交換・共有の場を設定し、問題の洗い出し、現状分析（課題・支援策・ステークホルダー等）を行い、解決策の仮説を立てることを目的とする。

取り組み内容：

①ヒアリング実施：松戸市の子育て支援団体（7団体）、中間支援NPO（1団体）、松戸市生活支援課、子育て支援課、子ども部

②プロジェクト会議：問題構造分析、対象者の絞り込み、仮説構築、既存サービス調査

③先行事例視察：

横浜市青少年地域活動拠点「西部ユースプラザ・ハッピースクエア」（まちなかカフェ）

神奈川県立田奈高校「ぴっかりカフェ」（図書館内カフェ・居場所）

大阪府箕面市「NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝」（地域内に多様な場、機会を創出）

④中学生アンケート：松戸市立中学校6校約1,500名にアンケート調査実施準備

⑤円卓会議：

日時：2017 年 3 月 10 日（金）18:30～21:00

会場：まつど市民活動サポートセンター　会議室２

参加者：NPO 法人松戸子育てさぽーとハーモニー、中核地域支援センターほっとねっと、不登校問題を考える東葛の会「ひだまり」、まつど子ども食堂、NPO 法人子どもの環境を守る会 J ワールド、CHIE の輪、まつど市民活動サポートセンター

⑥年次大会での報告：

日時：2017 年 3 月 20 日（月）

会場：全国町村会館

報告者：志村　　参加者：岩永、片桐、牧野、竹内

アドバイザー：水谷衣里氏（三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング）

※本事業は次年度も継続実施する予定。

８．情報発信・啓発

・財団の理念や事業を紹介するためのリーフレット改訂版を 3,000 部作成した。

・ホームページ、ブログ、facebook 等による情報発信を随時行った。

・メールマガジンを月に一度発行した。

・年次報告書ダイジェスト版を作成し、寄付者や関係者に配布した。

・「(仮）地域内資金循環のススメ」（白書）については、全体の構成と情報収集を行った。発行は次年度になる見込み。

・「暮らしやすい地域にしたい」「地域の役に立ちたい」「地域を活性化したい」と思う人を掘り起こし、アクションにつなげる機会をつくる「(仮）ソーシャルサロン」、ボランティアデーの開催はできなかった。

・千葉県協働まちづくりセミナー（日時：12 月 16 日　会場：千葉市ビジネス支援センター　主催：千葉県）にて事例報告「みんなの寄付で地域をよくする仕組みづくり」をした（報告者：志村)。

９．その他

（１）理事研修

・8 月 24 日　理事の役割と責任　財団のこれまでとこれから

・2 月 25 日　「地域づくり」とちばのＷＡの役割の共有、戦略的事業展開、組織運営体制

（２）他との連携

・一般社団法人全国コミュニティ財団協会

集合研修等に参加、また関東甲信越ブロック会議を開催するなど、全国のコミュニティ財団等と情報共有、連携を行った。

また志村が協会理事に就任し、熊本地震支援（おもやい基金・浄土宗平和協会基金）の審査、現地ヒアリングを行った。

集合研修：7 月 19 日（火）東京（志村・竹内出席）、9 月 13 日（火）京都（牧野・志村出席）、11 月 8 日（火）佐賀（志村出席）、1 月 16 日（月）千葉（牧野・岩永・片桐・志村・竹内出席）

年次大会：3 月 20 日（月）東京（牧野・岩永・片桐・志村・竹内出席）

関東甲信越ブロック会議：7 月 12 日（火）東京（牧野・岩永・片桐・志村・竹内出席）、2 月 23 日（木）東京（志村・竹内出席）

・全国レガシーギフト協会

遺贈寄付が最適な形で実現し、地域の課題解決や価値創造といった未来資産として貢献することを後押しするために、11 月に設立された。当財団は設立時加盟団体として情報提供、相談窓口、普及啓発活動を実施する。

11 月 14 日（月）設立総会（志村出席）

・ちばソーシャルビジネス支援ネットワーク

地域社会の課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネス事業者を支援するため、2017 年 1 月に発足した本ネットワークに支援機関として参加した。

参加支援機関：NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、千葉信用金庫、銚子信用金庫、東京ベイ信用金庫、株式会社日本政策金融公庫、中央労働金庫、公益財団法人ちばのＷＡ地域づくり基金

・5 月、印西市市民活動推進委員に志村が就任し、年 6 回委員会に出席し、主に企画提案型協働事業の審査にあたった。

【法人運営（管理）事業】

１．機関会議の運営

（１）理事会の開催

定例理事会を 4 回、臨時理事会を 1 回開催した。

第 1 回理事会（2016 年 5 月 20 日 18 時～20 時　ホテルメイプルイン幕張）

2015 年度事業報告及び決算案、定時評議員会開催内容等

臨時理事会（2016 年 6 月 9 日 18 時～18 時 30 分　ホテルメイプルイン幕張）

理事長、副理事長、専務理事の選定

第 2 回理事会（2016 年 9 月 27 日 18 時～20 時　ホテルメイプルイン幕張）

被災地・被災者支援助成等

第 3 回理事会（2016 年 12 月 20 日 18 時～20 時　ホテルメイプルイン幕張）

子どもの今と未来を支える基金、助成プログラム見直し等

第 4 回理事会（2017 年 3 月 21 日 18 時～20 時 30 分　ホテルメイプルイン幕張）

2017 年度事業計画及び予算、役員報酬等

（２）評議員会の開催

定時評議員会を 1 回開催した。

第 1 回評議員会（2016 年 6 月 7 日 18 時～20 時　ホテルメイプルイン幕張）

2015 年度事業報告、決算書類決議、評議員並びに理事、監事の選任、役員報酬総額等

（３）監査の実施

・監事が全 5 回の理事会にいずれも出席し、業務監査を実施した。

・2016 年 5 月 10 日に年度末の監査を実施し、監査報告書を作成した。

２．寄付者等の情報管理（Donor Relationship Management）

個人情報保護規定等に従い、寄付者等財団支援者の情報管理を徹底するとともに、DM 等で寄付者への事業・成果報告、コミュニケーションを円滑に行えるよう、データベースの適切な管理と活用を行った。

３．財団運営事務と管理体制整備

・事務局業務は専従 2 名体制で行った。

・理事間の情報共有のためにクラウド型コラボレーションツール「サイボウズ Live」やグループメールを活用した。